

日本に滞在するタイ人の生活構造とソーシャル・サポート

— 留学生・国際結婚定住者・労働者を事例に —

学位論文内容の要旨

本論文は、日本に滞在するタイ人留学生・就学生、日本人の国際結婚定住者、外国人労働者を対象に、タイ人同士や日本人とのネットワークやソーシャル・サポートの違いを比較したものである。

1990年代に外国人労働者や国際結婚定住者の問題は日本の国際化の課題として多いに論じられたが、日本経済の収縮傾向と共に外国人労働者が減少し、それに伴い調査研究も減った。事実、2008年時点において日本で外国人として登録しているタイ人は4万2千人を数えるが、タイ人留学生・就学生・研修生は約2千名と少なく、日本人の配偶者は1万2千人を超え、残りの一万数千人が労働者と約1万人と推定される不法残留者に二分される。1993年に不法残留者が5万人を超えた状況と比べれば、在日タイ人の生活状況は大きく変化したことがわかる。

本研究は近年手薄な在日タイ人の生活状況を彼らのソーシャル・サポートの構造に焦点を当てながら綿密な調査研究によって明らかにしようとした労作である。

以下、具体的に内容を要約していきたい。

まず、「はじめに」において、本論文の概要・構成を述べる。

第1部が問題の設定と研究方法論である。

第1章「問題設定」では、現代社会における国際労働力移動の現況と研究動向を概観し、次いでアジア、タイにおける労働者の国際移動の動向、とりわけタイ人労働者が日本へ移動する状況を述べた。

第2章「調査の視角と方法」では、日本における外国人労働者受入れ問題や国際結婚定住問題などに関する先行研究を概観した上で、分析視角としての生活構造・ソーシャル・サポート論についてレビューを行った。その後、調査対象者の選定、面接調査の方法を示した。

第2部が事例であり、在日タイ人（留学生・国際結婚定住者・労働者）の生活戦略を分析している。

第3章の事例は、タイ人留学生である。ここでは、国費と私費のタイ人留学生の就学と就労について、その生活構造や生活状況の相違点と共通点を明らかにした。タイ人国費留学生は、奨学金が支給されて生活時間や金銭面に余裕があるため、タイ人の友達や大学に属する日本人と交流する時間がタイ人私費留学生よりも多い傾向にあった。一方、学費や生活費が不足しているタイ人私費留学生の場合は、学習・研究の時間以外はアルバイト中心の生活を過ごしていた。日本での生活は、双方とも学習と研究に関しては、日本人の指導教員から指導的サポート

を受けていたが、「アルバイト」、「住宅探し」とその生活問題上の相談に関しては、在日タイ人の留学生やタイ人国際結婚定住者の同国人を中心に様々なサポートを受けていた。

第4章の事例は、都市部に在住している日本人男性と結婚したタイ人女性である。ここでは、国際結婚という手段で「労働者」から「配偶者・地域住民」へと社会的地位を変化させていく経緯と彼女たちの生活戦略を考察した。本研究では、主に都市部に居住するタイ女性を事例としたため、日本の農村において配偶者不足の解消を目的に行われる「国際結婚」による定住者のように同居する夫の両親と共に農業に携わりながら、家事や育児などを行うという事例はない。都会で暮らすタイ人女性国際結婚定住者の場合は、主婦、パート主婦、或いは自営業者と有職のことが多い。就ける職種は、在タイ時の学歴・職歴、日本人配偶者の年齢や職種等で変わる。

第5章の事例は、不法滞在するタイ人労働者である。ここでは、一般的な職業につく不法滞在タイ人労働者を中心に生活の実態、生活上での問題を検討した。調査対象のタイ人労働者（工員、店舗従業員、労務者等）は、様々な手段を用いて入国後に不法に在留し、職を得た後、タイにいる家族へ送金している。生活上での問題について、彼らは、主に不法滞在するタイ人のネットワークを通じて、仕事・住居・事故や病気などへの対処法、さらには本人確認書類が必要である携帯電話や車などの物品を購入する際の違法な代理を依頼するなどして日本での生活の情報や援助を受けていた。

第3部では、在日タイ人におけるソーシャル・サポートの比較分析を行っている。

第6章は、「留学生」、「国際結婚定住者」、「不法滞在労働者」といったカテゴリーに分類されるタイ人が、異文化社会内で抱える悩みや生活上の問題を解決する上でどのようなソーシャル・サポートを得ているのかについて比較を行った。ここでは、ソーシャル・サポートの領域を「仕事又は研究・学習」、「人間関係」、「情緒」、「環境・文化」に分け、それぞれの領域ごとにサポートの内容を「物質的」「感情的（精神的）」「指導的」「情動的」サポートとして分類した。異文化社会内で抱える悩みや生活上の問題については、どの領域においても在日タイ人のネットワークが重要な役割を果たしていることが明らかになった。日本人からのサポートを得られるかどうかは、留学生と国際結婚定住者においては主として生活圏、語学力が大いに左右し、労働者は不法滞在という状況から日本人からサポートを得られるような環境を形成できていない。サポート得られる場として、タイ料理店や日本におけるタイ寺院が機能していることも明らかになり、前者は金銭的なサービスや商取引、後者は同国人同士の精神的つながりを得ることに力があることが事例から分析できた。

最後の第7章では、「留学生」、「国際結婚定住者」、「労働者」のソーシャル・サポートと社会的ネットワークを総括し、それぞれの生活構造の特徴を考察した。奨学金がない、あるいは少ないタイ人留学生の生活就労や生活時間はタイ人国費留学生と異なり、彼らは学費や生活費のために就労時間を増やすと共に研究や勉強時間も減らさざるを得ない状況にある。都市部に在住するタイ人女性国際結婚定住者の場合は、家事や育児以外の生活時間が自由になり、タイの家族、前夫の子供の生活費を稼ぐために、就職活動を行う傾向にあった。タイ人労働者は、労働時間、賃金の比較優位によって職場を選択しながら日本社会で隠れるように同国人同士のネットワークを形成していた。

今後の課題としては、国籍別に行われている外国人滞在者や定住者のソーシャルネットワークやソーシャル・サポートの比較分析が残されている。4年間の博士論文執筆期間では十分なしえなかった。

学位論文審査の要旨

主 査 教 授 桜 井 義 秀

副 査 教 授 松 岡 昌 則

副 査 准教授 橋 本 雄 一

学 位 論 文 題 名

日本に滞在するタイ人の生活構造とソーシャル・サポート

— 留学生・国際結婚定住者・労働者を事例に —

本論文は、日本に滞在するタイ人留学生・就学生、日本人の国際結婚定住者、外国人労働者を対象に、タイ人同士や日本人とのネットワークやソーシャル・サポートの違いを比較したものである。本研究は近年手薄な在日タイ人の生活状況を彼らのソーシャル・サポートの構造に焦点を当てながら綿密な調査研究によって明らかにしようとした労作である。

本論文の内容を要約すれば、第1章「問題設定」では、現代社会における国際労働力移動の現況と研究動向を概観し、次いでアジア、タイにおける労働者の国際移動の動向、とりわけタイ人労働者が日本へ移動する状況を述べ、第2章「調査の視角と方法」では、日本における外国人労働者受入れ問題や国際結婚定住問題などに関する先行研究を概観した。第3章から第5章までが事例であり、それぞれ、在日タイ人（留学生・国際結婚定住者・労働者）の生活戦略を分析している。

第6章において、在日タイ人におけるソーシャル・サポートの比較分析を行っている。ここでは、ソーシャル・サポートの領域を「仕事又は研究・学習」、「人間関係」、「情緒」、「環境・文化」に分け、それぞれの領域ごとにサポートの内容を「物質的」「感情的（精神的）」、「指導的」、「情動的」サポートとして分類し、異文化社会内で抱える悩みや生活上の問題については、どの領域においても在日タイ人のネットワークが重要な役割を果たしていることが明らかになった。最後の第7章では、「留学生」、「国際結婚定住者」、「労働者」のソーシャル・サポートと社会的ネットワークを総括し、それぞれの生活構造の特徴を考察した。奨学金がない、あるいは少ないタイ人留学生の生活就労や生活時間はタイ人国費留学生と異なり、彼らは学費や生活費のために就労時間を増やすと共に研究や勉強時間も減らさざるを得ない状況にある。都市部に在住するタイ人女性国際結婚定住者の場合は、家事や育児以外の生活時間が自由になり、タイの家族、前夫の子供の生活費を稼ぐために、就職活動を行う傾向にあった。タイ人労働者は、労働時間、賃金の比較優位によって職場を選択しながら日本社会で隠れるように同国人同士のネットワークを形成していたとされる。

次に、内容の評価に移りたい。

①本論文の調査研究は、面接調査や参与観察によって在日タイ人の動向を調べ上げた貴重な資料を提供している。

第一に、従来、不法就労タイ人労働者の代表例として調査された性産業に従事するタイ人女性や、建設作業員の男性労働者以外にも、ジョブホッピングを重ねる男女の労働者や自営業者が存在し、彼らなりのネットワークとノウハウで家や車を買ひ、海外送金を行うコミュニティがあることを明らかにしたこと。第二に、国際結婚定住者の階層性と日本での定住指向、配偶者死亡後の生活設計等に関連があることを明らかにしたこと。第三に、ソーシャル・サポートを得る場としてのタイ料理店や日本におけるタイ寺院の存在と態様を明らかにしたこと、である。

②本論文の分析視角であるソーシャル・サポートの研究において、在日タイ人の在留資格と社会的地位に応じたネットワーク形成とサポートの実態を明らかにした。すなわち、開放的コミュニティを形成している留学生・国際結婚定住者たちは、日本人と個別の社会関係を結ぶのに対して、閉鎖的コミュニティを形成する不法就労者たちは、グループやネットワークのリーダーを通して、別のネットワークやグループと交渉や関係を結ぶ傾向にある。また、タイ人と日本人との境界の設定もまた、彼・彼女たちの生活状況と相関していることも明らかにされた。

③しかしながら、ソーシャル・サポートの分析が知見を生み出しているのに対して、生活構造の概念・分析にもの足りなさを感じられた。その要因は、社会階層や労働市場と連動した社会層としての生活構造概念や、都市部の社会関係・ネットワークで規定される生活構造概念によって在日タイ人の生活状況を分析することが困難であったことにある。つまり、留学生は大学というコミュニティ、国際結婚定住者は日本人配偶者の生活圏、不法就労者たちは法律の壁で区切られたそれぞれのコミュニティで生活しているために、地域・労働市場と連動させた関係論的分析が十分できなかったためである。そのために、本論文では3つのカテゴリーに分類された在日タイ人の生活構造よりも生活戦略の視点を生かした分析がなされており、これはこれで興味深い知見をもたらしているが、全体の立論の構成において齟齬が出てきたことは否めない。

④口述試験において上述の問題点をただしたところ、クルプラントン氏自身がそれらに関して十分自覚していた。また、審査員の意見は博士論文としての評価を減じるものではなく、本論文で展開した調査研究のさらなる発展可能性を示唆するものであった。クルプラントン氏は博士論文の調査研究の過程において、国際学会でも研究発表を行い、各章のもとになっている個別論文をタイ研究、アジア遊学等の雑誌に掲載し、その他本研究科の英文ジャーナル一本や大学院生の研究論集二本の論文を投稿している。このような研究の進展状況からも、本博士学位申請論文が学術的に一定の水準で満たすレベルで執筆されたことが認められる。

以上の審査結果から、本審査委員会は、全員一致で本学位申請論文が博士（文学）の学位を授与されるにふさわしいものであると認定した。